**第２学年　道徳指導案**

平成２４年５月２１日

２年Ｂ組　生徒数２１名

指導者　横山　江梨

１、主題名　　希望・勇気，強い意志　１－（２）

２、ねらい　人間であるからこそ感じる心の苦しみと向き合い，強い意志をもってそれを乗り越えようとする心情を養う。

３、資料名　「生きるために人は夢を見る　―　左腕のカメラマン　林健次」　〈光村図書〉

４、主題設定の理由

誰もが夢や希望を抱いたことはあるけれど、その大小や困難は人によって違う。「実現した体験」「くじけてしまった体験」「現在取り組んでいること」と、経験も様々である。

　この資料は、カメラマンを目ざしていた林建次が、交通事故のため右腕の自由を失ってしまう。苦しみと焦燥の中で、カメラマンになる夢に支えられて再び立ち上がり、やがて精一杯生きるボクサーを撮るようになるまでの半生を著したノンフィクションである。生きることの厳しさ、喜び、勇気、人間の強さ……それらを感得させることのできる力強い資料となっている。

　２年生は、学習や部活動など、一生懸命取り組むことのできる生徒が多くみられる。また、それぞれの目標に向かって努力しているが、取り組姿勢に弱さや迷いも見られる。今後、３年生が引退した後、部活動においては２年生が中心になり、困難にぶつかることも多くあると考えられる。それらに対し、強い意志をもって取り組むことで自分自身を向上させることにことができることに気付かせたい。

指導においては林の真剣さがボクサーたちを動かし、ボクサーたちの真摯な姿が林を触発するという関係を捉えさせ、一つひとつ小さな目標でも達成してくことの尊さや、困難にも負けず粘り強く最後まで着実にやり抜くことの意義について考えさせたい。また。人は様々な困難を乗り越えながら夢や目標に向かって生きるということに気づかせ自分の生き方を考えるきっかけにしたい。

５、準備物　　　写真（林　健次）　　ワークシート

６、学習指導経過

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 主な発問と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １、林健次について知る。（最初の部分を読む） | さて、この人を知っていますか。　・カメラマン　 | 左腕のカメラマン　林健次について知る。 |
| 展開 | ２、困難を乗り越えて生きるためにはどのようにしたらよいかを話し合い、自分の考えを深める。 | ①　事故の後、治療で３年が過ぎ、スタジオの同期たちがそれぞれの目標を見つけて巣立っていったとき林さんはどんな気持ちだったのでしょうか。* なぜ自分だけが不幸に陥ったのか。
* もう自分は立ち直れないのではないか。

②　林さんが「人間として精一杯生きる」ボクサーたちの姿を撮りたいと思うようになったのはなぜだと思いますか。* 精一杯生きるボクサーの姿に感動した。
* カメラマンとして復帰を目ざす林さんは、ボクサーの懸命な姿を自分の生き方と重ね合わせていた。
* 迷いながらも（大変な思いをしながら）新しい夢を見つけて立ち上がることの素晴らしさを伝えたい。
* 林さんが一生けんめいやっているので一生けんめいやっている人が理解できるようになった。

「生きるために人は夢を見る。」という林さんの言葉にはどのような気持ちが込められているのでしょうか。* 人生には目標が必要であり、目標に近づこうする意思が困難を乗り越え、人生の意味を高めることになる。
* 夢があるから頑張れる。
* 目標を持つことはいいことだ。
* 夢を見るということは生きるということを支えるんだ。
 | 一人取り残された焦りや寂しさ、不運への怒り、絶望感など林の心の影の部分を感じ取らせる。困難を抱えながら自分の生き方を模索する林の心情に迫る。懸命に生きていたからこそボクサーの姿に感動することができたことに気付かせる。　困難を乗り越え、夢に近づくことの繰り返しが人生であることに気付かせる。 |
| 終末 | 林さんから学んだこと、生き方に共感できると思ったことについて考える。　 | 林さんが困難に打ち勝てたのはなぜでしょう。林さんから学んだこと、生き方に共感できると思ったことについて考える。また、これからの自分の生き方に取り入れたいことや思い描いていることをまとめる。 | くじけそうになっても目標に向かっていく過程の繰り返しが自分の生き方につながることに気づかせる。 |

７、本時の言語活動

　　　　　①　展開の場面で、自分の気持ちを表現することができる。

　　　　　②　終末では考えた事を文章化することができる。